

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370077

研究課題名(和文)アウグスティヌスにおける心性の複層性と修道制への関与

研究課題名(英文)Christian Identities and Their Relationship with Monasticism in Augustine

研究代表者

上村 直樹(Kamimura, Naoki)

東京学芸大学・教育学部・研究員

研究者番号：40535324

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、古代末期の哲学的、神学的な伝統におけるアウグスティヌスの霊的修練に関する、また人間の完成に関する見解をふまえ、キリスト教共同体におけるキリスト教的・異教的な「心性」の問題を考察している。研究の進展に応じて、先行のラテン教父、また東方教父へも考察の範囲を広げたことによって、アウグスティヌスの心性理解が、聖霊と神の恵みのはたらきによって確保される自己変容の可能性を、キリスト論的思考の展開とともに勝義に捉えていることが明らかにされた。

本研究では、英文研究報告書を作成し、海外研究協力者との協力関係を出発点に、オーストラリア、台湾、ベルギー、英国、カナダの研究者との相互交流を推進した。

研究成果の概要(英文)：This research project is to deal with the questions concerning Christian and/or pagan identity/ies in the North African community, in correlation with Augustine's view of the spiritual training and the perfection of human beings in the late-antique philosophical and theological tradition. In the process of this research, the relationship between the western and eastern Mediterranean Christianity has been considered, thereby reaching the conclusion that Augustine's understanding of Christian identity is based principally and fundamentally on his Christological thinking with which he admits the possibility of transforming oneself was created and maintained by the working of the Holy Spirit and of divine grace. This research project has published a research report entitled "Disciplines and Identities, Divine and Spiritual, in Late Antiquity" and has been stimulated by the growth of international exchange among Australian, Taiwanese, Belgian, British and Canadian scholars.

研究分野：人文学

キーワード：アウグスティヌス 教父 キリスト教 古代末期 人間論 心性史 霊操 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

古代地中海世界に生きた人々の「心性」に関する研究は、古代ヨーロッパ史、古代哲学史、古代キリスト教史、そして教父学といった一連の関連する研究領域のなかで、交錯しつつもそれぞれに固有の観点からアプローチされてきた。これらの研究動向のなかで、「心性」という主題への関心がまず顕著に認められるのは、1960-70年代にその第三世代にいたったフランスのアナル学派においてである。これまでの歴史学研究が看過してきた「心性」に着目する歴史認識の手法が、フェルナン・ブローデルを中心としたグループによって採用され、社会集団の変化を持続的に捉える成果が結実した。この歴史学の転換と相関しつつ、西ヨーロッパの歴史における主体の系譜的な展開を明らかにしたフランスの哲学者ミシェル・フーコーは、その最晩年の著作『性の歴史』第2巻『快楽の用法』と第3巻『自己への配慮』において、「生き方としての哲学」という古代思潮に根強い伝統を解明する研究につよく影響を受けている。これは、フランスの古代哲学史家ピエール・アドによって提唱された「心性」を古代哲学における「生の技法」という規定のもとに捉えようとする試みであったとも言えよう。こうした革新的な動向とは独立して、古代キリスト教史の領域では、キリスト者の生き方の模範について考察する研究成果が蓄積されてきた。これは、古代エジプトにはじまる修道制が地中海世界の東西にひろがった経緯とその実態に関する研究にもとづいている。

本研究の研究代表者・上村直樹は、2009-2011年度に研究分担者として遂行した「転換における「貧困」に関するアウグスティヌスの洞察と実践の研究」、また、研究代表者として2011-13年度に遂行した「アウグスティヌスにおける聖書解釈の理論と実践」において、アウグスティヌスの「貧困」へのとりくみを支えた思想とその歴史的な文脈を検証し、聖書解釈の実態を考察することを通して、社会と言語という二方向にむかう人間の生の局面が、その分断を分断のままにキリスト教的な心性によって包摂されている可能性を見出すにいたった。さらに、2013年オーストラリアでひらかれた研究集会での発表を踏まえて、アウグスティヌスの生への関心が西方修道制の成立場面と連動することに着目した。

欧米を中心に活発なアウグスティヌス研究において近年注目されるのは、アウグスティヌスに先後する古代教父の研究が精緻なレベルに到達し、また、「古代末期」研究の進展とともに、4-5世紀の実態が社会的、文化的、宗教的な観点からいっそう明らかにされることで、アウグスティヌスの思想の生成と変容を新たな視座のもとに捉える研究があらわれはじめたことである。とはいえ、歴史学、哲学、教父学の領域において、それぞ

れに問われてきた人間の生についての研究を相互に架橋し、より広汎な視座から古代人の心性を解明しようとする試みは緒に付いたばかりである。

2. 研究の目的

アウグスティヌスの「貧困」に関する研究と、初期の聖書解釈に関する研究から得られた成果をふまえて、本研究では、中期の主著『告白』にさきだつおよそ10年に期間をかぎり、「心性」の複層性に関するアウグスティヌスの理解を、「生の技法」という哲学的な生の規定と古代修道制との関連において包括的に解明することを目的とする。

ここで注意すべきは、短期間に書かれたテキストが分析の対象であるとはいえ、それらを複眼的に分析し、その結果を総合して考えなければならないということである。検討される問題はつぎの三項にまとめられる。

- A. 古代の哲学的な生の規定は、いかに受容されるか。
- B. 生の範型は、修道制との関わりのうちに、いかに探求されるか。
- C. 心性の複層性は、同時代の環境との関連において、いかに捉えられるか。

研究代表者にとって第一の課題は、Aの問いに答えることである。出発点となった二つの研究から明らかになったのは、社会と言語という二局面の生へのアウグスティヌスの反省作用である。この反省を手掛かりに対象となるテキストを分析し、「生の技法」について考察する。また、アウグスティヌスが生のどの局面においてこの技法に言及しているかを明らかにする。これは、本研究の基盤を整えるために入念に検討されるべき課題である。

これと平行して、Bの問いに答えることに着手する。生の規定についての考察が、キリスト教的な生の範型への関心に連動すると想定されるからである。この時期のアウグスティヌスは、友人との修道的な共同体を構築することにとりかかり、その活動をふまえた著作を公刊している。そこで、それらの著作を中心にアウグスティヌスの説教と書簡もふくめて原典テキストを包括的に分析し、生の範型に関するアウグスティヌスの探求のプロセスを明らかにする。

ついで、これらの分析をふまえて、Cの問いに答えることをめざす。この時期のアウグスティヌスが、ストア派や新プラトン主義などの古代諸学派、また東方教父からも影響を受け、折衷主義的な思想傾向をもっていたこと、また、キリスト教的な生を標榜する異端、分派と関わったことが明白だからである。そこで、アウグスティヌスがこうした錯綜する環境のもと、宗教的な次元と世俗的な次元とが複層的に交差する心性をいかに捉えたかを考察する。

3. 研究の方法

本研究において焦点をあてる『告白』にさきだつおよそ 10 年間は、そのなかにアウグスティヌスがはじめて教会の指導者に就いた時期をふくみ、アウグスティヌスの著作活動が、哲学的・神学的な探求にとどまらず、司牧的な活動へひろがることによって、多様な様相をあらわしはじめた段階である。そこで本研究では、コンピュータデータベースを駆使してこの時期のテキストを網羅的に調べることが、研究の基礎的な材料を準備するためには必要不可欠であると考えた。さらに重要なのは、基礎的な材料として用意された原典テキストの年代論的な相互の関連と、それぞれの問題を論ずる文脈を検証することが欠かせないということである。そこで研究代表者は、すでに着手しつつあった初期の哲学的な著作に関する分析から得られた所見と、データベースにもとづく網羅的な調査とを照らし合わせることによって、上述の研究方法の妥当性を検証することから本研究に着手した。

本研究では、これまでの先行の科研費研究と同様に、海外研究協力者との定期的な意見交換、研究成果の妥当性をめぐる議論、研究の方向性についての修正を行なうことによって進められた。これによって、本研究の進捗に大きな寄与がもたらされたと考えられることができる。さらに、年度ごとに 5 回程度の国際学会における研究発表を継続して行なうことによって、これまで以上に海外研究ネットワークとの相互交流が進展したことは、研究の方法を順次修正していくうえでも、少なからぬ便宜がはかられたと考えることができる。また、あらたにさまざまな研究者から有益なアドバイスをうけるにとどまらず、海外研究集会への参加の機会も提供されるにいった。

4. 研究成果

(1) 2014 年度

研究初年度にあたって研究代表者・上村直樹は、研究計画にあげた課題 A「古代の哲学的な生の規定は、いかに受容されるか」、ならびに課題 B「生の範型は、修道制との関わりのうちに、いかに探求されるか」の考察に着手し、研究成果を国内外の学会において発表した。そして、海外研究協力者との意見交換を通して、また研究成果の公刊をふまえ、研究第二年度の研究の方向性を明確にすることにもとりくんだ。

研究代表者はまず、2014 年 5 月に開催された北米教父学会において、古代の哲学的な生の規定を 3・4 世紀北アフリカのキリスト教思想家のうちに検討した成果を発表し（学会発表 15）、ついで開催されたカナダ教父学会では、キリスト教的な生の範型について、アウグスティヌスの「書簡」のうちに考察した論考を発表した（学会発表 14）。研究者からの批評と意見交換を通して、課題 A と B を相

補的に検討するという本研究の妥当性を検証した。ついで 9 月上旬に開催されたアジア環太平洋初期キリスト教学会、9 月下旬に開催されたセントアンドリュース神学院教父学シンポジウムでは、アウグスティヌスの「説教」において課題 B を検討した成果（学会発表 13）、そして、東方教父からの影響を課題 A にそくして考察した論考を発表することによって（学会発表 12）、アウグスティヌスの著作全体のうちに本研究を展開する可能性を検討した。

年度後半には、2015 年 4 月にマルタ共和国で開かれる北アフリカ教会の説教を主題とするコロキウムに参加する準備をすすめた。そして 3 月上旬には、オーストラリアカトリック大学初期キリスト教研究センターでの年次集会（学会発表 11）、3 月下旬にはアメリカ合衆国アイオワでの Shifting Frontiers in Late Antiquity 学会において研究成果を発表し（学会発表 10）、学会に参加した研究者との、また海外研究協力者との意見交換をすすめた。

(2) 2015 年度

研究第二年度にあたって研究代表者・上村直樹は、当初の研究計画にあげた課題のなかで、ひきつづいて課題 B「生の範型は、修道制との関わりのうちに、いかに探求されるか」の考察にとりくむとともに、課題 C「心性の複層性は、同時代の環境との関連において、いかに捉えられるか」に着手した。そして、これらの研究成果を海外の学会において発表するとともに、諸媒体においてその成果を公刊することをめざした。さらに、海外研究協力者との意見交換を通して、研究成果を冊子体の英文報告書として刊行するための準備にとりかかった。

研究代表者は、まず 4 月にマルタ共和国で開催された北アフリカ教会の説教を主題とする国際コロキウムにおいて、キリスト教的な心性と異教的な社会環境との干渉と葛藤の実態について分析する研究を発表した（学会発表 9）。ついで、英国オクスフォードで開催された国際教父学研究集会において、さきのコロキウムでの課題をアウグスティヌスの書簡を題材に分析する研究を発表した（学会発表 8）。また、オランダのブリル社から出版された論文集に、アウグスティヌスへの東方教父からの影響を主題とする論文を掲載した（図書 4）。

年度後半には、研究初年度に構築した国際研究ネットワークにおける交流を通して、海外諸媒体に投稿する論文の修正と加筆にとりかかった。マルタでのコロキウムに発表した成果をまとめた論文はベルギーの出版社へ送付、前年度から寄稿を依頼されていた台湾の雑誌 Universitas への論文も送付した（雑誌論文 1）。これらは審査のうえいずれも掲載が認められた。ベルギーの出版社から刊行予定の論文集は、出版にいたる最終段階に

ある(図書2)。そして、3月上旬のオーストラリアでの年次集会に参加、研究成果を発表し(学会発表7)、最終年度における研究発表の一部について先行して準備をすすめた。

(3) 2016年度

本研究の最終年度においては、これまでに明らかになった問題を検討するとともに、全体の研究成果をまとめ、海外諸学会においてその成果を発表するとともに、2月に冊子体の英文研究報告書を刊行した。また、成果の一部は海外出版社から刊行された論文集に所収され、現在印刷中である。

研究代表者は、5月にシカゴで開かれた北米教父学会において、アウグスティヌスの説教における聖地エルサレムをめぐる言説を分析することを通して、心性と空間理解との関係について考察し(学会発表6)、つづく5月のカルガリーでのカナダ教父学会において、異教徒とキリスト教徒との関係をよく表しているとされるアウグスティヌスの書簡群の一部を分析した発表を行なった(学会発表5)。さらに、9月中旬に開催されたアジア環太平洋初期キリスト教学会において、教父テクストが中世末期の日本においてどのように受容されたかの研究発表を行ない、心性の問題について文化圏を越境するかたちで考察するための手がかりを探った(学会発表4)。さらにこれまでの研究発表を修正したものをオーストラリア、台湾、英国の各研究集会において発表するとともに、研究成果をまとめるための最終準備にとりかかった。

これまでの研究発表を再考し、その内容を必要に応じて加筆、修正した。そして、2017年2月には報告書を刊行するとともに(図書3)、英国・カンタベリーでの学会発表のときには、その概要を紹介した。そして、本研究をさらに展開する可能性について考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

1. Naoki Kamimura, 2016. 'Christian Identity and the Construction of Spiritual Training in the Writings of Tertullian, Cyprian, and Lactantius.' *Universitas: Monthly Review of Philosophy and Culture*, No. 504 (Vol. 43 no. 05) (Taipei City, Taiwan: Universitas) 119-154. 査読有

2. Naoki Kamimura, 2016. Book Review: *St. Augustine's Interpretation of the Psalms of Ascent*. By Gerard McLarney. In *Theological Studies* 77: 216-218. DOI 10.1177/0040563915620187a 査読有

3. Naoki Kamimura, 2015. Book Review: *What Are They Saying about Augustine?* By

Joseph T. Kelley. In *Theological Studies* 76: 641-642. DOI 10.1177/0040563915593487k 査読有

4. Naoki Kamimura, 2015. 'La consulta de los libros sagrados y el mediador: las "sortes" en Agustín.' *Revista AVGVSTINVS* 60 (Madrid: Editorial Augustinus) 223-233. 査読有

5. Naoki Kamimura, 2014. 'On the Japanese Society for Patristic Studies and the Patristica.' In N. Kamimura (ed.), *Patristica, supplementary vol. 4* (Japanese Society for Patristic Studies) 59-62. 査読無

6. Naoki Kamimura, 2014. 'Scriptural Narratives and Divine Providence: Spiritual Training in Augustine's City of God.' In N. Kamimura (ed.), *Patristica, supplementary vol. 4* (Japanese Society for Patristic Studies) 43-58. 査読有

[学会発表](計 15件)

1. Naoki Kamimura, 'The reception and (dis-)assimilation of patristic literature in early modern Japan,' International Conference 'Ancient Thought from a Global Perspective: Human Freedom and Dignity', Canterbury Cathedral Lodge, Canterbury, United Kingdom, 25 February-1 March 2017.

2. Naoki Kamimura, 'Augustine on Friendship: Some Remarks on the Letters with Christian and Pagan Intellectuals,' 10th International Conference of the Taiwan Association of Classical, Medieval and Renaissance Studies, National Pingtung University, Pingtung, Taiwan, 21-22 October 2016.

3. Naoki Kamimura, 'Deification and the Foundation of Spiritual Progress in John Chrysostom and Augustine,' Seventh St Andrew's Patristic Symposium 'Saint John Chrysostom', St Andrew's Greek Orthodox Theological College, Sydney, Australia, 23-24 September 2016.

4. Naoki Kamimura, 'The Provisional Reception of Patristic Authors in 16th-Century Japan,' APECSS 10th Annual Conference "Survival of Early Christian Traditions", State University of Aerospace Instrumentation, St Petersburg, Russia, 9-11 September 2016.

5. Naoki Kamimura, 'Augustine's Friendship and the Shared Vision: The Correspondence between Augustine, Flavius Marcellinus, and

Volusianus,' Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies, University of Calgary, Calgary, Canada, 29–31 May 2016.

6. Naoki Kamimura. 'Jerusalem and the Landscape of Sacred Geography in the Sermons of Augustine,' North American Patristic Society 2016 Annual Meeting, Hyatt Regency Chicago, Chicago, USA, 26–28 May 2016.

7. Naoki Kamimura. 'Deification and the Spiritual Progress in Chrysostom and Augustine,' Annual meeting of the Centre for Early Christian Studies, Australian Catholic University, Brisbane, Australia, 4–5 March 2016.

8. Naoki Kamimura. 'Christian and Pagan Identities and Their Relationship with the Spiritual Training in the Letters of Augustine,' Workshop 'Out of Africa': The Quest for North African Theological Identity(/-ies) in the Patristic Era, XVII. International Conference on Patristic Studies, Oxford, United Kingdom, 10–14 August 2015.

9. Naoki Kamimura. 'Christian and/or Pagan Identities and Their Relationship with the Spiritual Exercise in the Sermons of Augustine,' Ministerium Sermonis III. International Colloquium on North African Patristic Sermons, Augustinian Historical Institute, Malta, 8–10 April 2015.

10. Naoki Kamimura. 'Augustine's Spiritualisation of Almsgiving and its Relation to the View of Society,' Shifting Frontiers in Late Antiquity XI, University of Iowa, Iowa City, USA, 26–29 March 2015.

11. Naoki Kamimura. 'Augustine's Psychological Configuration of Almsgiving and its Correlation with the View of Society,' Annual meeting of the Centre for Early Christian Studies 'Agency and Power in Early Christian Social and Church Issues,' Australian Catholic University, Brisbane, Australia, 6–7 March 2015.

12. Naoki Kamimura. 'Spiritual Itinerary of the Soul to God in Gregory of Nyssa and Augustine,' St Andrew's Patristic Symposium 2014, St Andrew's Greek Orthodox Theological College, Sydney, Australia, 26-27 September 2014.

13. Naoki Kamimura. 'Christian and/or Pagan Identities in the Sermons of

Augustine,' Asia-Pacific Early Christian Studies Society 9th Conference, Toyo Eiwa University, Yokohama, Kanagawa Prefecture, Japan, 4–6 September 2014.

14. Naoki Kamimura. 'The Conflict and the Applicability of the Christian and/or Pagan Identities in the Letters of Augustine,' Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies, Brock University, St Catharines, Canada, 24–26 May 2014.

15. Naoki Kamimura. 'The Basis for Christian Identity: "Spiritual Exercises" in the North African Church AD 250–320,' North American Patristic Society 2014 Annual Meeting, Hyatt Regency Chicago, Chicago, USA, 22–24 May 2014.

〔図書〕(計 4件)

1. Naoki Kamimura, in press. 'The Relation of the Identity of North African Christians to the Spiritual Training in the Letters of Augustine.' In M. Vinzent (ed.), *Studia Patristica* (Leuven: Peeters).

2. Naoki Kamimura, in press. 'Augustine's Sermones ad Populum and the Relationship Between Identity/ies and Spirituality in North African Christianity.' In G. Partoens, A. Dupont, and Sh. Boodts (eds.), *Praedicatio Patrum. Studies on Preaching in Late Antique North Africa, Ministerium Sermonis III, Instrumenta Patristica et Mediaevalia 75* (Turnhout: Brepols).

3. Naoki Kamimura, 2017. *Disciplines and Identities, Divine and Spiritual, in Late Antiquity, Research Report Grant-in-Aid for Scientific Research (C) JP26370077*, Tokyo. Total 126 pp.

4. Naoki Kamimura, 2015. 'Augustine's Scriptural Exegesis in De sermone Domini in monte and the Shaping of Christian Perfection.' In G. D. Dunn and W. Mayer (eds.), *Christians Shaping Identity from the Roman Empire to Byzantium: Studies inspired by Pauline Allen, Supplements to Vigiliae Christianae* (Leiden: Brill) 225–247. Total 520 pp.

〔その他〕

ホームページ等

1. 「アウグスティヌスにおける心性の複層性と修道制への関与」

<http://kmmrnk.com/gasr2014>

2. 英語版ウェブサイト「2014-2016 Grant-in-Aid for Scientific Research」

<http://kmmrnk.com/research/2014-2016gasr>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上村 直樹 (KAMIMURA, Naoki)

東京学芸大学・教育学部・研究員

研究者番号：40535324

(4) 研究協力者

アレン ポーリーン (ALLEN, Pauline)

オーストラリアカトリック大学・

初期キリスト教研究所所長・教授